

社会の学習

1 学習のねらい

中学校の社会科では、地理、歴史、公民の3分野の学習を行います。地理では、世界の国々や日本の都道府県の学習を中心に、それらを調査するために必要な知識を身につけます。歴史では、日本史の通史を中心に歴史の流れを理解できることを中心に学習します。公民では、人権と憲法・政治・経済・国際社会等を中心に、現在の社会のしくみについて学習します。

2 主な学習内容

	1 学 年	2 学 年	3 学 年
1 学 期	◎地理 「世界のさまざまな地域」 ①世界のすがた ②世界各地の人々の生活と環境 ◎歴史 「歴史のとらえかた」 「古代までの日本」 ①文明のふもとと日本の成り立ち ②古代国家のふもとと東アジア世界	◎歴史 「近世の日本」 ①ヨーロッパ人との出会いと全国統一 ②江戸幕府の成立と鎖国 ③産業の発達と幕府の動き ◎地理 「日本の様々な地域」 ②世界から見た日本のすがた	◎歴史 「二度の世界大戦と日本」 ①第一次世界大戦とアジア・日本 ②世界恐慌と日本の中国侵略 ③第二次世界大戦とアジア 「現代の日本と世界」 ①日本の民主化と国際社会への参加 ②国際社会と日本 ◎公民 「現代社会と私たちの生活」
2 学 期	◎地理 「世界のさまざまな地域」 ③世界の諸地域 ④世界のさまざまな地域の調査 ◎歴史 「中世の日本」 ①武士の台頭と鎌倉幕府 ②東アジア世界とのかかわりと社会の変動	◎歴史 「開国と近代日本の歩み」 ①欧米の進出と日本の開国 ②明治維新 ③日清・日露戦争と近代産業 ◎地理 「日本のさまざまな地域」 ③日本の諸地域 (九州 中国・四国 近畿中部)	◎公民 「個人の尊厳と日本国憲法」 ①人権と日本国憲法 ②人権と共生社会 ③これからの人権保障 「現代の民主政治と社会」 ①現代の民主政治 ②国の政治の仕組み ③地方自治と私たち 「私たちの暮らしと経済」 ①消費生活と経済 ②生産と労働 ③価格と金融
3 学 期	◎地理 「日本のさまざまな地域」 ①日本のすがた ②世界から見た日本のすがた	◎地理 「日本のさまざまな地域」 ③日本の諸地域 (関東 東北 北海道) ④身近な地域の調査	◎公民 「私たちの暮らしと経済」 ④政府の役割と国民の福祉 ⑤これからの経済と社会 「地球社会と私たち」 ①国際社会の仕組み ②様々な国際問題 ③これからの地球社会と日本

3 学習の仕方

(1) 授業について

- ・忘れ物をしない。(教科書・資料集・地図等)
- ・課題、宿題は必ずやる。
- ・提出物の提出期限は必ず守る。
- ・集中して授業に参加する。(しっかり聞く、話し合う、進んで発表する、課題に取り組む)
- ・教科書等の基本用語(太文字)は覚える。
- ・ノートを工夫して作る。(板書だけでなくメモも取れるようにする)

(2) 家庭学習について

- ◎各分野共通・・・教科書をよく読みまとめたり、ワークや資料の問題に取り組む。
- ◎各分野ごと
 - ・地理・・・地名は地図帳等で確認して覚える。略地図を作るのも良い。
 - ・歴史・・・用語や人名は略年表を作って時代の流れをつかんで覚える。
 - ・公民・・・新聞、ニュースなどをよく読む。

4 観点別評価について

観点別評価のA・B・Cは、それぞれ以下の基準でつけました。

観点	A B Cの基準
関心・意欲・態度	A：提出物が毎回きちんと出せる生徒 授業中の発言・発表が意欲的な生徒 C：提出物がほとんど出せない生徒 授業に対する姿勢が、十分でない生徒 A：本時の課題に対する解決を短い文章でまとめようとしている生徒(1・2年) C：本時の課題に対して消極的で、解決しようとする態度が見られない生徒(1・2年)
思考・判断・表現	A：発問や課題を的確にとらえ、表現できる生徒 C：発問や課題を的確にとらえられず、表現できない生徒 A：本時の課題に対する解決を短い文章でまとめることができる生徒(1・2年) C：本時の課題に対する解決を短い文章でまとめることができない生徒(1・2年)
技能	A：資料を的確に読み取り活用できる生徒 C：資料がうまく活用できない生徒
知識・理解	A：定期試験の知識・理解を問う問題の正答率が高い生徒 C：定期試験の知識・理解を問う問題の正答率が低い生徒

5 評定について

評定は、各観点の評価を総合したものであると考えますので、以下のようにつけました。

まず、観点別評価のA B Cを点数化します。

A：3 B：2 C：1

4つの観点の合計点から、右の表に沿って評定を算出しました。

【例】オールAの場合、A A A Aで計12点。→評定は5	
オールB	B B B B 8 3
オールC	C C C C 4 1

評定	4観点の合計
5	12
3	7、8、9
2	5、6
1	4